

## ～飼料用米の多収穫栽培ポイントについて～

水田活用米穀として、飼料用米の取り組みが広がっています。  
飼料用米の栽培ポイントについてご紹介させていただきます。

### 1. 栽培のポイント

#### (1) 適正生育量の確保

ポイントは以下の5点です。

- 適正な基肥量、穂肥量を施用しましょう。
- 耕深 15cm を確保しましょう。(根の健全な発達により籾数を確保)
- 田植え時期を守りましょう。

田植えの目安は、新潟次郎は5月上旬、いただきは5月中旬です。

※遅植えの場合、早生品種は稲体が大きくなる前に出穂してしまい、  
晩生品種は低温条件下で登熟するため登熟不良発生の恐れがあります。

- 適正な栽植密度で田植えを行いましょう。

新潟次郎は㎡当たり18株(60株セット)以上、  
いただきは㎡当たり15～18株(50～60株セット)が目安です。

- 穂肥は2回に分け、目安の窒素分量(3kg/10a)を確実に施用しましょう。  
特に籾数確保のため、1回目の穂肥は遅れずに施用することが重要です。



(窒素分量/10a)

窒素量	品種	新潟次郎	いただき	備考
基肥		7.0kg	6.0～7.0kg	
1回目穂肥		3.0kg	3.0kg	出穂前25～23日
2回目穂肥		3.0kg	3.0kg	出穂前14日
栽植密度		60株/坪	50～60株/坪	

## (2) 防除の徹底

- 施肥窒素量が多い場合、いもち病が多発しやすくなるため、育苗箱施用による葉いもち防除・穂いもち予防防除を必ず行いましょう。
- 籾米のまま、もしくは籾殻を含めて家畜に給餌する場合は、出穂以降の農薬の散布を控えましょう。

## 2. 収穫・収量について

### (1) 収穫適期

- 黄化籾割合が85～90%になった頃が収穫の適期です。  
(出穂後の積算温度は、新潟次郎は1,000℃、いただきは1,000～1,050℃が目安)

### (2) 収量構成要素

- 飼料用米の収量構成要素は以下が目安です。

品種	目標収量 (kg/10a)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	一穂籾数 (粒)	m <sup>2</sup> 当たり籾 数(千粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)
新潟次郎 (極早生)	700	410～450	90～96	39～41	80	21.5～22.5
いただき (晩生)	700	340～370	94～102	35～37	80～85	23.3～24.0
(参考) コシヒカリ一般	540	380	75	28	90	22.0

※ 多収穫栽培暦(暫定版)より

多収穫栽培は土壌養分を収奪しやすいため、堆肥や土づくり資材、もみ殻の施用などを適宜行いましょう。

ケイ酸、カリウムの還元のため、稲わらの秋すき込みも有効です。

また、新潟次郎は出穂が早いので、雀害対策を適宜実施しましょう。

**栽培目安を守り、多収穫を目指しましょう!**

以上

( 担い手・営農支援部 担い手・営農支援課 )

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。